

図書館建築のコンセプトについて

07L4108 高橋 直也

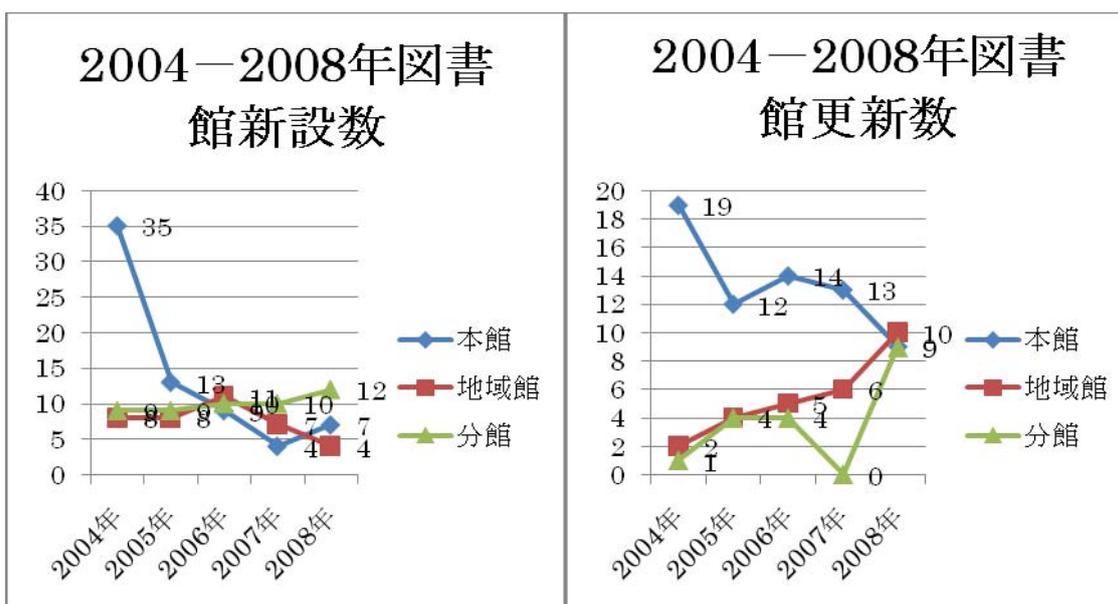
1. 近年の図書館建築の傾向

近年の図書館建築では、コンピュータなどの電子的技術の導入、機械化書庫、IC タグなどに特徴がある。「平成の大合併」によって新築・増築が増えたが、近年では既存施設の転用事例や、「民間資金等の活用による公共設備等の整備等の促進に関する法律」に沿って行われる PFI による図書館など建築手法も多様化している。

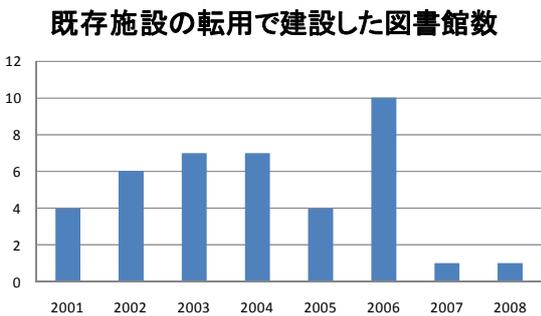
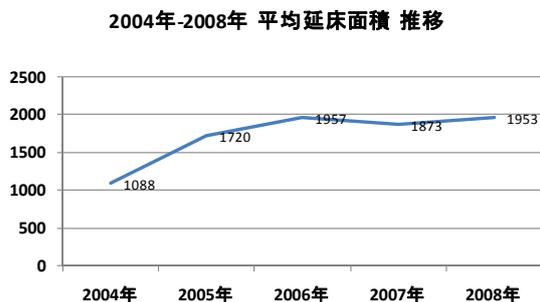
2. 調査

2.1 2004 年 - 2008 年の図書館建築数

2005 年から 2009 年までの図書館年鑑の「図書館の施設と設備」のデータから、新設・更新館数と床面積の推移を調査した。



建築数自体は平成の大合併の影響を受けた 2004 年以外の年は総計 50 館前後と大きな推移は見られなかったが、延床面積が年々拡大していることがわかる。これは図書館単体の施設ではなく複合施設としての図書館建築が増加していることが一因となっている。また自治体の財政悪化などの理由で小学校や公民館などの既存施設の転用事例は 2006 年まで毎年増加傾向にある。PFI を利用して建築される図書館は、2004 年から 2008 年まで毎年 1 館程度である。



2.2 個別図書館の調査

岡崎市図書館交流プラザ、宇美町地域交流センター、日進市立中央図書館、長崎市立図書館、の4図書館について「近代建築」[15]と各図書館のホームページを用いて調査をおこなった。各図書館の基礎データは表のとおりである。

	名称	開館年	新築・改築別	総面積 (m ²)	図書館面積 (m ²)	延床面積 (m ²)	階数	収蔵可能冊数	うち開架の冊数
1	岡崎市図書館交流プラザ	2008	改築	25,000	13,500	18,000	3	1,000,000	315,000
2	宇美町地域交流センター	2008	新築	13,093	4,065	5,381	2	140,000	90,000
3	日進市立中央図書館	2008	新築	11,554	4,180	6,101	2	480,000	180,000
4	長崎市立図書館	2007	新築	5,886	3,650	11,658	4 (地下1階)	800,000	250,000

3. 考察

近年の図書館を近年の図書館を調査していくと、複合型図書館の増加と機械化が進んでいるようだ。

どちらの事例もまだ歴史が浅く、長期間の利用によって表面化してくる問題もあると考えられる。それに備えるためにも各図書館が運営していくデータをしっかりと蓄積・共有することで今後の図書館建築に役立てる必要がある。

設置方法にしても2004年から平成の大合併による補助金を利用した図書館設置や、桑名市立図書館のようにPFIを利用した民間資金を活用する図書館建築など多様化している。まだ歴史も浅く、過去の事例も少ないため活用する場合これまで以上に注意が必要である。上記の事項から現在、図書館建築は建築様式、建築方法ともに戦後から新たな過度期を迎えているといえる。